

日本将棋連盟の棋士との対局も！

四谷大塚 こども将棋教室 開催!!

昨年11月に初開催された「四谷大塚こども将棋教室」。大好評につき、2018年7月21日(土)・22日(日)に再び開催され、多くの子どもが将棋を楽しみました。その様子をレポートします。

写真/石井和広



2時間弱の将棋教室でも子どもたちは成長!

藤井聡太棋士の快進撃や羽生善治棋士の永世7冠に湧いた2017年の将棋界。2018年になっても藤井棋士が史上最年少で七段昇段、31年ぶりに8大タイトルを8人で分け合うなど、多くの話題を振りまいています。

四谷大塚でも「多くの子どもたちに将棋の楽しさを知ってもらい、論理的思考力や集中力などを磨いてほしい」という考えから、昨年続き「こども将棋教室」を開催。年長生から小学3年生までを対象に、首都圏の計10校舎(お茶の水、渋谷、中野、巣鴨、人形町、町田、横浜、あざみ野、津田沼、南浦和)で行われました。

今回取材に伺ったのは渋谷校舎。

取材時には主に小学生が参加し、そのほとんどは初心者です。最初は緊張気味だった子どもたちも、日本将棋連盟の山本正樹先生(指導棋士)が明るい口調で将棋の魅力を語ると、真剣に耳を傾けます。実際に駒を使う段階になると、配布資料を熟読し、ほかの子と早さを競うかのように駒を並べていくなど、多くの子どもが高い集中力を発揮しました。

将棋はこのほかにも、論理的思考力や決断力、先を読む力、礼儀作法などさまざまな力を育む競技であり、その一端が垣間見えたのが山本先生による多面指し。

最初のあいさつを疎かにした男の子に山本先生が真剣な表情で「お願いします」と頭を下げると、男の子も背筋を伸ばしてお辞儀する。また別の子は決着がついた後に山本先生が「おしかったね」とと盤面を指すと、「ここをこうすれば良かったんだ!」と勝負の展開を先読みし、自分の考えを論理的に説明。90分のプログラムの中で確かに子どもたちの成長が感じられました。

社会・世界に貢献する人材を育てることを目指す四谷大塚では、今後も将棋教室を定期的で開催する予定です。ホームページなどに掲載される告知をぜひご覧になってください。

プログラム

1 基本的なルールを解説する

指導棋士の山本先生がホワイトボードに貼りつけた盤面を使いながら、「二人が交互に打つよ」「20個の駒を使うんだ」「駒の動かし方を誤ったら、すぐに失格だから注意して」など基礎から丁寧に解説。子どもたちは真剣に耳を傾けます。



2 駒を正しい位置に並べる

山本先生が駒の並べ方を説明し、子どもたちも自ら手を動かします。初めて将棋に挑む参加者は駒を持つ手がおぼつかない様子ですが、山本先生や四谷大塚のスタッフが適宜サポート。「歩」「角行」「王(玉)」などを正しい位置に並べ終え、準備完了!



3 駒の種類と動き方を知る

飛車は十字に、角行は斜めに移動できるなど、各駒の動きを学習。敵陣に入ると駒の動きが変わるなど、大人でもすぐに理解するのは難しいほどルールは複雑。子どもたちは適宜、配布資料で駒の動きを確認しながら覚えていきます。



4 参加者同士でいざ対局!

ルールを覚えたら、いよいよ対決。全員背筋を伸ばし、「お願いします!」のあいさつから対局スタート。子どもたちは数秒足らずで勝負に熱中し始め、パチンッ!パチンッ!と小気味よい音が教室に響きわたります。



5 対戦相手を変えてもう1局

最初の対局が終わったら、対戦相手を変えて再びチャレンジ!積極的に駒を動かす子、長考する子など、一人ひとりの個性が垣間見えます。子どもたちはさらに山本先生とも対局し、将棋の奥深さを実感していきます。



おいしい~!
ここに指せば
王手だったね

ああ~、
しまった!



山本先生が多面指し(同時に複数人を相手にして指すこと)を行う。「ここに指せば王手だったよ」「もう勝てないという判断をできるのが立派!」など前向きな言葉を掛けられ、子どもたちは思わず笑顔に。

論理的思考力、集中力、決断力、
先を読む力、礼儀作法……
幅広い力が養われる!

参加者の感想!



横内 蓮くん
(1年生)

最初はドキドキしたけど、すごく楽しめた。またチャレンジしてみたい!



相原 季歩さん
(2年生)

将棋のルールをちゃんと学んだのは今回が初めて。先生との対局が楽しかったです。